

2010 7/17土-8/31火

はかる？!

はかる？!

みんなであそぶプログラム

[10:00-4:00]
子どもと大人、いつでもいっしょに参加できます。
「はかる」をテーマにたくさんのお遊びのカードをつくりました。
あそぶカードはくじで決めます。

- きもちメーター
- あるいはかる
- かぞくのサイズ
- びったりんピック
- いろばかり
- からだスケール
- びりびりメジャー など

あつまるあそぶプログラム

[土・日曜日、祝日実施 2:00-2:30、3:00-3:30]
家族や友達だけでなく、たくさんの人とコミュニケーションをとれる遊びです。

- タイム・ドカン
1分間を長く感じるか、短く感じるか…。制限時間がせまる中で、ドキドキしながらゲームをクリアする遊びです。
対象:5歳～(幼児は大人と参加)
定員:各回30名
受付:各回30分前

○詳しくは、当日館内の案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。

あそび実験工房

[月曜日実施 2:00-3:00]

じっくりとテーマにとりくむプログラムです。
定員:10人程度
受付:30分前

たべるあそぶプログラム

[日曜日実施 11:00-12:00 2:00-3:00]
つくること・食べることそのものを楽しむプログラムです。

- ためす
いろいろな食材でジュースをつくります。
ひとつまみ、少々、適量…はかってまぜて
どんな味になるか、ためすあそびです。

対象:子どもと大人
定員:各回6組
受付:各回30分前

特別プログラム [事前募集]

[8月25日(水)、26日(木)の2日間
10:00-4:00(宿泊はしません)]

- あなをほる
ただひたすら穴を掘ることに没頭するあそびです。

子どもとおとな、ドキドキ発見!

ACC

Aichi Children's Center

レター

News Letter 2010 夏

ふだん私たちはいろいろなものを「はかり」ながら生活しています。
「大きさ」「重さ」「時間」「気温」などは、道具を使って「はかる」ことができます。
でも、「気持ち」「きれいさ」「触りごち」などには、決まった「はかり」はありません。
それでも自分の中で、何かの基準をつくりたり、比べてみたりすることで、
知らず知らずのうちに「はかる」ことをしているようです。
今回の特別企画のテーマ、「はかる?!」～これくらいってどれくらい～では、
「はかれるもの」「はかれないもの」すべてひっくり返して「はかる」ことをあそびます。
たくさん「あそびのカード」をきっかけに、
子どもも大人もいっしょになって、
今まで見えなかった「もの」や「こと」に出会う新鮮な体験をしたいと思います。

はかる？!

これくらいってどれくらい

2010 7/17土-8/31火
愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)

開館時間=9:00-17:00
休館日=会期中は休まず開館しています。
入館料=中学生以下無料、その他300円
主催=愛知県児童総合センター(財団法人愛知公園協会)

愛知県児童総合センター

〒480-1101 愛知県愛知郡長久手町熊張(愛・地球博記念公園内)
TEL 0561-63-1110 <http://www.acc-aichi.org/>

開館時間=9:00-17:00 入館料=中学生以下無料、その他300円

7月の休館日=5、12日 8月は無休 9月の休館日=6、13、21、27日
10月の休館日=4、12、18、25日 11月の休館日=1、8、15、22、29日

公共交通… 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から
機関で リニモ「愛・地球博記念公園駅」下車

車で… 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから
足助方面すぐ(愛・地球博記念公園 北駐車場利用)



このたび、「ACCレター」を発行することになりました。愛知県児童総合センターの「今」と「これから」、児童健全育成や子育て支援に関するさまざまな情報をお届けします。

愛知県児童総合センターは「遊び」をテーマにした県立大型児童館です。1996年の開館以来、子どもと大人がともに、心と身体をフルに活用して遊ぶことで、新しい気づきが実感できる時間と空間を提供しています。また、遊具や遊びのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワークづくり、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っています。



編集・発行/愛知県児童総合センター(財団法人愛知公園協会)



私たちの身の回りには○△□のカタチがいっぱい。
○△□のカタチをきっかけに、いろいろな遊びの環境や遊びのプログラムをつくりました。
とてもシンプルで簡単なカタチですが、「創造力」を働かせながら見直してみると、
今まで見えなかったものが見えてきます。
「世界は●▲■でできている」って、ホントなんだ?!



センターのあちこちに、「○△□のレリーフ」「○△□のでざわり」「かお・カオ・KAQ」など、○△□をテーマにした「あそびの環境」を仕掛けました。
愛知県児童総合センターの建物全体が○△□の構造でできています。



リニモの駅のマークであそぶ

とてもステキな「リニモ」の駅のマーク。すべて○△□からできているそうです。バスルにしたり、新しい模様をつくりたりして遊びます。(協力：愛知県立芸術大学白木研究室、佐藤研究室、愛知高速交通株式会社)



はるカム

3チームにわかれ、○△□のカードを見せあい、その形がそろったらグループの陣地の「ベル」を素早く鳴らします。「はりまわるカードゲーム」です。

たべる○△□

溶かした数種類のチョコレートに絵の具のようにつけて模様を描きます。屋外に運び、寒さで板状に固まったら割って食べます。

○△□あそびのチケット

はじめに「あそびのチケット」をつくります。いろいろなあそびに参加するたびに、チケットを切りとって「○△□のフレーム」に飾っていきます。



くむ・つむ・かたち

段ボールでつくった大きな立方体、直方体、三角柱を組み立てて遊びました。

まるからさんかく・まるからしかく

中央に穴のあいた用紙に、カラフルなクレヨンで○△□の模様だけを描きます。空中に飾った後は綴じて本にしました。(2009.12.19 - 2010.1.17)



[aru] work in progress

「汗かくメディア2009」の受賞作品です。スクリーンに映った○△□のカゲのかたちを、自分のカゲで動かして遊びます。「あそびラボ」で今も引き続き体験できます。(協力：二宮諒さん／中京大学情報科学研究科)

つちのとう

粘土を板状にのばし、○△□の模様をつけてクルッと丸めて円錐状に。ライトテーブルに飾って完成。



ならべてあそぶ「グルグル」

切り糸で粘土を切ります。切ったそのままのカタチをみんなであそび、渦巻きのようにならべて遊びます。



「●▲■ーかたちであそぶー」は、平成21年度の愛知県児童総合センター「冬季特別企画」として実施しました。(2009.12.19 - 2010.1.17)

お知らせ

と

募集

今年も移動児童館が始まりました

愛知県児童総合センターで実施してきたあそびのプログラムを、児童健全育成や子育て支援を目的とした団体等との協働事業として実施します。



アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2010

「汗かくメディア」受賞作品公開展示

子どもたちがメディアを通して、新鮮な視点で世界に主体的にかかわり、新しいコミュニケーションや表現を可能にする遊びのプログラムを全国公募しました。今年も、32の提案の中から選ばれた「汗かくメディア賞」受賞作品3点を公開展示します。愛知発「世界で初めての遊び」を体験してください。

会期：2010年9月11日(土)から26日(日)
展示作品：「作品名」…作者名
「RIPPLE」…林桃子 / Villavicencio Paul
「伝音板」… Shogi
「なげる、あてる、ひろがる」… スイッチ

あなをほる

公園内で穴を掘ります。2日間、ただひたすら穴を掘ることに没頭するあそびです。
実施日：8月25日(水)・26日(木)
対象：小学4年生以上の子ども(両日参加出来る方)
定員：10人
申し込み方法：電話または館内で直接申し込みください。



あのねっとクラブ

「あのねっとクラブ」は子どもと保護者を対象にした遊びのクラブです。わくわくするような感覚遊びを中心に親子で楽しく遊びます。親にとっては子どもの新しい姿を発見すること、他の親との交流を深めることができ、子どもにとっては日常では出来ないような遊びを体験できます。5回連続の講座で第3回はお父さんも参加するプログラムになります。

第1回「ウゴイテあそぶ」
第2回「ハンシン!であそぶ」
第3回「パパのクッキングタイム+ママのジブンジカン」
第4回「サワッテあそぶ」
第5回「ママのみんなジカン」



期日：
「すいすい」コース
9月8日(水)、15日(水)、25日(土)、29日(水)、10月6日(水)
「もくもく」コース
9月9日(木)、16日(木)、23日(木・祝)、9月30日(木)、10月7日(木)
※内容は各コース同じものです。
時間：10時30分から12時まで
対象：2歳6ヶ月から3歳(平成18年9月～平成20年2月生まれ)の子どもと親
※5回連続のプログラムに全て参加できる方。
※「すいすい」コース、「もくもく」コースのどちらかのコースを選んで下さい。
※第3回は「お父さんと子どものプログラム」と「お母さんのプログラム」になります。
託児あり：各コース定員5人(希望者多数の場合は抽選)
定員：各コース15組
参加費：無料(児童総合センター入館料300円が必要です)
申し込み方法：往復はがきに下記の項目をご記入の上、「あのねっとクラブ」係までお送り下さい。

1. 希望コース
2. 子どもの名前、性別、生年月日、参加時の年齢(○歳○ヶ月)
3. 参加するお父さん、お母さんの名前
4. 郵便番号、住所
5. 電話番号
6. 託児希望の方は、子どもの名前、性別、年齢
締め切り：8月16日(月)必着
※希望者多数の場合は抽選となります。

あいちこどもクリエイティブクラブ (ACCC)

愛知県児童総合センターでは、年間を通じて活動する遊びのクラブを実施しています。ただいま下記のクラブメンバーを募集しています。申し込み方法：電話または館内で直接申し込みください。

●ACCC 遊びの企画会議

子どもたちがスタッフとともに、今まで思いもよらなかったような「もの」や「こと」、「ひと」などとの出会いを通して、名前もない、全く新しい遊びを企画、開発していきます。

対象：小学5年生から高校生まで
年間を通して10回程度活動します。

●ACCC ジュニアスタッフ

愛知県児童総合センターが実施している「あつまるあそびプログラム」に手伝い隊として参加、遊びの準備や片づけ、プログラムの参加者への案内など、スタッフ体験をします。

対象：中学1年生から3年生まで
活動日：月1回程度、日曜日を実施
時間：11時から16時まで(プログラムにより変更有)
定員：50人(登録制)
(プログラム1回毎の参加人数は2~3人)



●ACCC 畑プロジェクト

そとのひろばに畑や庭をゆくり、のんびりつくっていくプロジェクト。私たち生きものと太陽、空気、水、土とのつながりや、植物が成長するゆるやかな時間を感じます。登録していなくても当日参加できます。

対象：5才以上(大人といっしょに参加してください。)
活動日：毎週土曜日(参加できる日のみで可。)
時間：10時から13時

くわしくはホームページまたはそれぞれの募集チラシをご確認ください
お問い合わせ：
Tel 0561-63-1110

親子で遊ぶトコトコプログラム



親子であそぶトコトコプログラムは、「お母さんやお父さん」が楽しむためのプログラムです。もちろん大人向けというわけではありませんが、小さな子どもたちが何を見て喜んで笑うのか、どんなことに真剣に向き合っているのか、子どもの目線になって一緒に体験することで子どもの新しい姿を発見してほしいと思います。苦手なことも見つかるでしょうし、子どもたちの不安そうな顔を見るかもしれません。でも、それも親にとっては発見です。思わず手を出したくなる場所をグッとこらえて子どもの様子を見ているのも、たまにはいいかもしれません。そしてお母さんやお父さん自身が楽しむ姿を子どもたちに見せてあげてほしいと思います。「大人が楽しいと子ども

はうれしい」を合言葉に「まずは親が楽しむ」こと、それが子どもたちも楽しむための秘訣です。初夏の日差しが気持ちいい日、「水であそぶ」プログラムをおこないました。水は子どもたちにとって大好きな遊び、何もなくても水さえあれば楽しいようです。大きなたらいに水をたっぷり張って置いて、大小さまざまなカップを用意しました。するとひたすらカップに水をくんでこぼす子、草や石を拾って水に浮かべたり沈めたりする子、ただただ水をかき混ぜる子、思い思いに遊び始めます。そこで大人は子どもの真似をします。それだけで子どもは大喜びです。水鉄砲や舟を浮かべて遊ぶのも楽しいですが、素朴なあそびは子どもたちをとてもステキな笑顔にしてくれます。



親子であそぶトコトコプログラム：毎週水曜日、平日のゆったりとした時間に、小さな子どもたちとお母さんお父さんが、一緒に遊ぶためのプログラムです。見る、触るなどの感覚的な遊びを中心にいろいろな素材をテーマにしたり、ひっぱる、へんしんするなど動きをテーマにしたり、素朴な遊びを体験します。

思うようにならない「小さい愛しい命」

子育てのおはなし
毎日の子育ては楽しいですか？ しんどいのですか？
：多分多くのお父さんお母さんは「両方」と答えられるのではないのでしょうか？
普段は基本的に、小さい子どもをかわい、愛おしいと感じ、この小さな命を何としても守っていかうと思っているのですが、お互いに何だかうまくいかないときがある、こちらの体調も悪い事だつてあるし、子どももさつと同じなものでしょう、なだめてもすかしても、食べ物で釣っても遊んでもぐずつて「もう、いやー」つてなる時がありますよね。
私が子どもを育て始めた頃感じたことのひとつは、「こんなに思うようにならないものが世の中にあつたのか？」ということでした。学生時代の学業も友

人関係も、仕事の時間配分も、自分が考えたり、努力したり工夫したりすることで、何とかなってきた。それなのに、この小さなかわい存在は、ちつとも私の思うようにならない！
以来、この思うようにならない生き物とともに、時にあきらめ、時に争い、駆け引きをし、何とか折り合いをつけて暮らしてきました。自分の力ではなんともならないことが世の中にけつこうたくさんあることに気づかされ、その中でも子どもの愛らしいしぐさや言葉に救われながら、しんどさを傍らに置いたまま暮らし続けてきました。そして今、この小さな生き物は人の親になっていきます。彼は自分の側の小さな命をどう感じているのでしょうか？

後藤 かをり
臨床心理士